

北海道電機 株式会社 [奈井江町]

- ・代表者 代表取締役社長 新山 強
- ・事業内容 配電用電線ケーブル、電気蓄熱暖房器、光ファイバ製品
- ・設立 昭和62年(1987年)
- ・資本金 2億円
- ・従業員数 100名
- ・住所 〒079-0304 空知郡奈井江町字奈井江776番地
- ・電話番号 (0125) 65-6155
- ・FAX番号 (0125) 65-6144
- ・E-Mail kanri@hokkaido-denki.co.jp
- ・URL <http://www.hokkaido-denki.co.jp/>

北海道唯一の配電用電線メーカーとして安心 快適な生活インフラを創造

北海道電機は、北海道で唯一の配電用電線メーカーとして創業以来、道内のインフラの整備に多大に貢献してきました。北海道固有の厳しい自然環境に対応した【低風圧難着雪電線】の開発など優れた製品によって高い信頼を獲得しています。近年、冬季の停電が極めて少なくなったのも同社のおかげと言えるでしょう。『明日の豊かさをデザインする』をスローガンに、電線ケーブルに加え、平成4年には道産初となる電気蓄熱暖房器の開発に成功し、さらに光情報社会の到来に対応して、平成7年からは道内唯一のコネクタ付き光ケーブル・コードの組立販売を開始しました。進化する家電とインターネットによる便利で安心なライフスタイル。そんな日々を何気なく送ることができるようになったのも、同社の研究開発の成果と言っても過言ではありません。

より経済的で安全な【暖吉くん】は、ポスト石油暖房機器の期待が急増中

1バレル100ドル時代の到来。我々がかつてない原油高を経験する今、暖房経費の節約は生活防衛の必須の課題と言えるでしょう。そうした中で、北海道電機と北電、住友電工の共同開発により道内初の電気蓄熱暖房器として誕生した【暖吉くん】は、ポスト石油暖房機器としての期待が高まっています。電気蓄熱暖房器は特殊レンガを熱電線で500以上に熱したのち断熱材で保温、そこから放たれる熱で室内を暖める仕組みで、これまではドイツ製の製品が主流でした。北海道電機の【暖吉くん】はさらに蓄熱と放熱の機能に優れ、電気料金が安い深夜帯に蓄熱するため、経済的で安全性が高い優れたものです。そのため、3年前の年間出荷数だった1万5千台に比べ、2007年3月期はオール電化住宅の普及とともに2万5千台にまで伸び、本州にも多数出荷しています。製品のラインアップも24種類に増えて、今後も4万台を見込んでいます。

北海道の生活を豊かにすることを第一の経営理念とするホット・カンパニー

北海道電機の沿革をたどれば、住友石炭鉱業奈井江鉱山の閉山対策として、住友電工と北電グループの共同出資により設立された進出企業です。しかしその名に北海道を冠し、地元へ溶け込む決意は並々ならぬものがあります。これまでのライン方式からセル方式(1人で完成品を組み立てる生産方式)に転換し、カンバン方式を導入して生産管理技術の向上を図りながら、地域企業に対しても技術移転や取引を通じて経済波及効果の向上に努めています。昨年、創立20周年を迎え、全社員の意見を基に初めて定めた経営理念は、『人と技術を大切にし、北海道の生活を豊かにする製品を提供することにより地域の発展に貢献し、北海道の素晴らしさを全国に発信し、社員が働きがいを持って自らの革新に挑戦し続ける企業を目指す。』こうした温かみと包容力がある経営理念をもった北海道電機は、まさに我々道民にとってホット・カンパニーと言えるでしょう。



空知ビジネスサークル【そらび】会員の横顔

代表取締役 新山強(にいやまつよし)さん



空知ビジネスサークルの会合には必ずと言ってもいいほどご参加いただいている新山さんは、柔らかな物腰の中で、【信念の人】の印象をお受けします。

ご自身の北海道に対する想いは、『生まれ故郷の北海道を元気にしたい。若者がものづくりに関心を持ち、製造業に携わる環境をつくりたい。』【そらび】のメンバーは皆同じ想いを持っておられると思いますが、新山さんの下で定めた北海道電機の経営理念には特にその想いが伝わってきます。

高校生のインターンシップも毎年受け入れ、光ファイバコネクタ組立などの実体験を通じて、企業活動の目的や仕事をやり遂げることの大切さ、新入社員と同等の安全知識を学んでもらうそうです。

座右の銘は『大事は理を以て決し、小事は情を以て処す。』正に人づくりを大切にされる新山さんらしい銘だと思います。